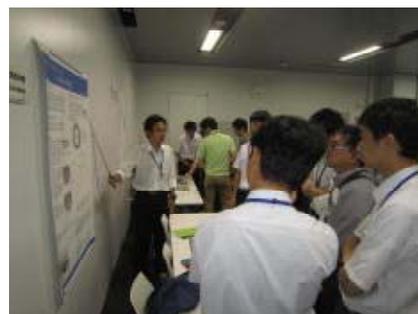


2 課題研究交流会

(1) 研究開発の課題（研究概要）

課題研究に取り組む高校生が、大学の研究者から直接アドバイスを受けられる機会を作る。このような機会を作ることで、高校生の課題研究の質を向上させ、意欲や論理的に考える力を高める。また、高校生同士が互いの研究を知り、議論することで研究を深める。



ポスター発表の様子

(2) 研究開発の経緯

多くの科学コンテストは、研究成果が評価される場になっており、研究で生じた問題点や疑問について質問ができる場にはなっていない。本交流会は、生徒が自分の研究内容について簡単に説明した上で、研究上の疑問や問題点について相談ができる機会として設定している。本年度で8回目の実施となる。

ア 研究の内容・方法

課題研究についてのポスター発表と相談、理学の研究方法に関する講義

イ 連携先 名古屋大学理学研究科・多元数理科学研究科・環境学研究科
岐阜大学、愛知教育大学

ウ 参加者 愛知県内の高等学校 生徒128名、教員24名

生徒：一宮南3名、岡崎27名、知立東6名、豊田西10名、豊橋東6名、名城附1名、名大附6名、明和9名、一宮60名

教員：一宮南1名、岡崎2名、知立東1名、豊田西3名、豊橋東1名、名城附1名、名大附1名、明和3名、一宮11名

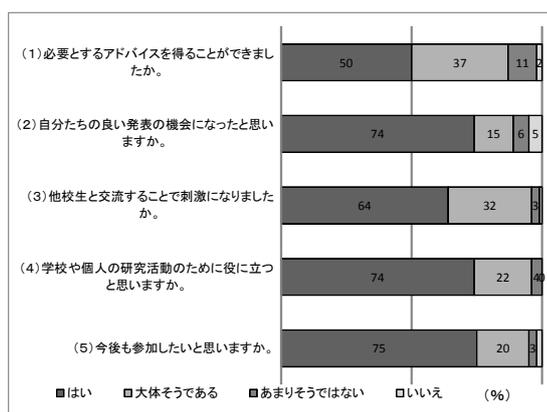
エ 日時場所 平成28年7月31日(日) 9時30分～15時30分

名古屋大学理学部南館1F多目的室及び大講堂(坂田・平田ホール)

オ 実施内容(注意・工夫した点)

ポスター発表の前に、ホールで1分間のプレ発表を行い、参加者が全ての発表の要旨を確認できるようにした。また、ポスター発表は前半と後半に分け、発表者も多くの発表を見られるようにした。

カ 検証(成果と反省)



生徒アンケートでは、多くの生徒が、「他校の発表を見て刺激になった」、「アドバイスが自身の研究のために役だった」と答えており、事業の効果が確認できる。また、これから研究を始めたいと考えている高校生にとっても参考となる事例が多く、課題研究の普及の面からも効果があった。特に今年度は授業で行った課題研究の成果を発表する生徒もおり、部活動だけではない課題研究の広がりを感じさせる。

要望事項として、「会場がやや手狭である」、「実施回数を増やして欲しい」などが複数あがっていた。

多くの参加者が集まり生徒の課題研究を支える良い機会になっているので、今後の課題研究のさらなる普及を期待して改善に努めたい。

参加生徒の感想から

- ・ 沢山の方々にアドバイスをいただき大変参考になりました。特に大学院生や先生からの質問やアドバイスはとても貴重であったと思います。他校生とも交流ができ良い刺激になりました。
- ・ 自分はこれから新たに研究を始めようと考えていたので参考になった。
- ・ 高校生や大学生、先生方の議論が盛んに飛び交っていて非常に良い交流の場だった。